



白樹

HAKUJU

白樹会だより 第24号

令和2年8月1日

発行／山梨県立大学看護学部同窓会 白樹会

編集／白樹会編集委員会

ホームページに最新情報を随時更新しております。
住所変更もこちらからお願い致します。



絆 初めての経験から学ぶ！



公立大学法人 山梨県立大学
看護学部同窓会「白樹会」会長
山梨県立高等看護学院保健婦学科

16期生 齊藤 けさ子

皆様におかれましては、ご健勝のこととお慶び申し上げます。

日頃は、白樹会活動に多大なご支援・ご協力をいただき居りますことに感謝申し上げます。

この度は、かつて経験したことのない大きな二つの事態に直面いたしました。

一つは、例年五月に行っていました白樹会総会、一人でも多くの方にご出席いただきたいとの願いから検討を重ね、開催時期を十月に変更して行うことになった初回の総会。関東地方に大きな被害をもたらした、台風十九号のため中止せざるを得ない状況となりました。

また、今年の一月から始まった新型コロナウイルスによる感染、あつという間に世界中に拡がり、例外なく日本も全国に感染が拡大するというかつてない出来事に遭遇しました。

政府より「緊急事態宣言」が発せられ、日常生活が大きく変化してしまいました。このため、同窓会の活動もメール会議による対応という状況にあります。

この政府からの宣言は、母校の学生にも勉学や生活の上で、大きな影響がでてきています。特に専門学部である、看護学部は演習や実習が多くの割合を占めています。

このような状況下であるため、学部長より同窓会に学生が演習や実習時に使用

する「マスク購入費」支援の要望がありました。

そこで、予期していなかった緊急事態ということで、支援の内容等についてメール会議を重ね、支援することになりました。

会員の皆様には大きな事態に直面する中、ご支援ご協力をいただき今日に至って居りますことを大変嬉しく思います。

これらのことを通し、絆を深め、連帯することにより、苦境を乗り越える大きな力を生み出すことができることを痛感したところです。

今母校は益々発展を続けてきています。その一つに、大学院看護学研究科への博士後期課程設置に向け、取り組んでおられます。同窓会といたしましても山梨県立大学理事長宛、文書でそのお願いをさせていただきます。

今後も会員相互の連帯を深め母校の発展に寄与できるよう、役員一同一丸となり、白樹会活動を展開して参る所存でございます。

皆様の変わらぬご支援・ご協力をお願い申し上げます。

末筆ではありますが、新型コロナウイルス対策に様々ななかたちの中で対応されていらっしゃる皆様のご健康をお祈り申し上げます。

看護の底力と柔軟性で母校を支援



公立大学法人 山梨県立大学
看護学部同窓会「白樹会」事務局長
山梨県立大学看護学部

准教授 前澤 美代子

私たち事務局員一同は、会長副会長とともに同窓会の皆様の活動や学生の支援を行いながら、白樹会を盛り上げ、白樹会活動の「見える化」に取り組んでまいりました。具体的には、ホームページや同窓会誌「白樹」の刷新、大学のキャンパスの環境整備などがあります。昨年度は、総会と講演会の日程を大学の学園祭の時期に変更しましたが、大型台風の影響で中止となりました。総会もメールとはがきでの審議となり、皆様のご理解とご協力のもと今年度の予算を執行させていただきました。また、寄付金の規定も作成し、審議の結果承認を得ることができ、募集を開始しました。さらに、新型コロナウイルス(COVID-19)感染の影響による災害支援を検討しております。

母校にとって同窓会が必要不可欠な存在となるよう、役員・事務局員一同、心を一つにして同窓会を発展させて参る所存です。また、同窓会

の機能や同窓生のネットワークを存分に活用し、母校発展と地域社会貢献の一翼を担いたいと考えております。皆様におかれましては、これまでに以上に白樹会の活動に関心を持っていただき、主体的かつ積極的に参画していただけますよう心からお願ひ申し上げます。



2019-2020年事業計画

- | | | |
|----------------|--|----------------------------|
| 1) 通常総会開催 | 4) 山梨県立大学看護学部および看護実践開発研究センターの行事への参加・協力 | 7) その他 |
| 2) 講演会 | 5) 在学生への支援活動 | ①ホームページを活用した広報活動の充実 |
| 3) 同窓会誌『白樹』の発行 | 6) 在学生との交流事業 | ②リレー・フォー・ライフ・ジャパン甲府への支援・参加 |
| | | ③白樹会基金設立の運用についての調整 |

※2019年10月12日に開催予定でした通常総会と講演会は大型台風の影響で中止せざるを得ない状況でした。また今年度は、新型コロナウイルス(COVID-19)の影響による社会情勢を鑑み、総会の方法を検討しております。講演会は中止となります。

2019-2020年 同窓会役員

	氏名	所属・役職名	卒業期
名誉会長	清水一彦	公立大学法人山梨県立大学 学長	
名誉会員	望月弘子	山梨県看護協会 名誉会長	
	松野かほる	前山梨県立看護大学 学長	
	林 滋子	前山梨県立看護大学・山梨県立看護大学短期大学部 学長	
	望月 勲	前山梨県立看護大学短期大学部 学部長	
	松下由美子	前山梨県立大学看護学部 学部長	
	佐藤悦子	前公立大学法人山梨県立大学看護学部 学部長	
	流石ゆり子	前公立大学法人山梨県立大学看護学部 学部長	
顧問	村松照美	前公立大学法人山梨県立大学看護学部 学部長	
	名取初美	公立大学法人山梨県立大学看護学部 学部長	
会長	齊藤けさ子	自宅	看1科15回生・保健科16回生
副会長	山岸大賀彦	地方独立行政法人山梨県立病院機構 山梨県立中央病院	看短大3回生
	市川佳子	山梨大学医学部附属病院	看護大4回生
監事	田中慶子	自宅	看1科14回生・保健科15回生
	山本美代子	自宅	看1科15回生・保健科16回生

卒業学校名称	略称	卒業学校名称	略称	卒業学校名称	略称
看護第1学科	看1科	看護第2学科	看2科	看護大学大学院	看大院
保健学科	保健科	看護短大	看短大	県立大学大学院	県大院
看護第2学部	看2部	看護大学	看護大		
看護第3学部	看3部	県立大学	県立大		

2019-2020年 同窓会事務局

	氏名	所属	卒業期
事務局長	前澤美代子	公立大学法人山梨県立大学看護学部	看1科34回生
書記	新藤裕治	公立大学法人山梨県立大学看護学部	看短大5回生・看護大3回生 県大院6回生
	飯嶋玲奈	公立大学法人山梨県立大学看護学部	県立大5回生 県大院12回生
会計	高取充祥	公立大学法人山梨県立大学看護学部	県立大1回生
	三澤みのり	公立大学法人山梨県立大学看護学部	看1科4回生・保健科4回生 県大院2回生
事務局員	天野淳子	甲府市立千塚小学校	保健科36回生
	大久保知香	山梨県福祉保健部中北保健福祉事務所	看短大6回生
	小沢めぐみ	峡南医療センター富士川病院	看短大6回生
	梶原 瞳	公益財団法人山梨厚生会 山梨厚生病院	看短大5回生
	星野麻子	山梨県立育福福祉センター	看短大4回生
	中嶋君枝	山梨大学医学部附属病院	看2科11回生
	渡邊 優	国民健康保険 富士吉田市立病院	看護大5回生
	井出和子	医療法人のだ内科クリニック	看2科10回生
	三枝 享	甲府市役所	県立大3回生
	山岸良治	地方独立行政法人山梨県立病院機構 山梨県立中央病院	看1科37回生
	見高智香	地方独立行政法人山梨県立病院機構 山梨県立中央病院	県立大1回生
	木村友里	地方独立行政法人山梨県立病院機構 山梨県立中央病院	県立大10回生
	奥田悠祐	地方独立行政法人山梨県立病院機構 山梨県立中央病院	県立大11回生
	樋口知香	山梨大学医学部附属病院	県立大11回生

2018年度(2018.5-2019.9) 白樹会一般会計決算報告

収入総額	5,965,919	円
支出総額	3,260,716	円
差し引き残額	2,705,203	円

項目	2018年度予算額	2018年度決算額	増減	備考
(収入の部) (単位 円・△減)				
繰越金	2,205,908	2,205,908	0	
入会金及び終身会費	2,000,000	3,760,000	1,760,000	
雑収入	20	11	△9	
合計	4,205,928	5,965,919	1,759,991	年度月(9月切り替えに移行)の変更により会費収入2年分
(支出の部)				
会議費	200,000	253,194	53,194	年度月(9月切り替えに移行)の変更により支出増加。
事業費	1,600,000	2,768,142	1,168,142	
事務費	300,000	189,140	△110,860	
賃借金	50,000	47,000	△3,000	
慶弔費	50,000	0	△50,000	
予備費	2,005,928	3,240	△2,002,688	
合計	4,205,928	3,260,716	△945,212	

2018年度(2018.5-2019.9) 白樹会特別基金決算報告

収入総額	5,709,758	円
支出総額	699,127	円
差し引き残額	5,010,631	円

項目	2018年度決算額	2018年度予算額	増減	備考
(収入の部) (単位 円・△減)				
前年度繰越金	5,709,685	5,709,685	0	
利息	73	66	7	
合計	5,709,758	5,709,751	7	
(支出の部)				
被災学生等支援費等	0	200,000	△200,000	
学内環境整備費用	699,127	700,000	△873	
合計	699,127	900,000	△200,873	
項目	2018年度決算額	2017年度残額	増減	備考
HP、広報設立費用	385,162	385,162	0	*2017年度総会にて発注済で承認議題

*細項目等はページ構成の関係ですべて記載できませんので、白樹会ホームページより総会資料を確認ください。
会計 高取充祥、三澤みのり

今年度の事業1

リレーフォーライフ



マスク寄贈について



新型コロナウイルス（COVID-19）の感染が拡大している状況を鑑み、
白樹会より学生支援のため、マスクを寄贈しました。

大学構内環境整備への支援

Before



After



国際交流支援活動

国際交流イベント「MANNAKA」への参加 ～地域住民が国籍に関係なく手を取り合える社会へ～

渡部 紗季、飯塚 彩加、小笠原 麻莉

国際看護学、国際保健医療演習の授業を通して学ぶ機会を頂き、支援してくださっている同窓会の皆様に感謝します。

2019年度はCovid-19の影響で海外研修が中止となりましたが、1月に中央市で開催された外国籍住民とのスポーツ交流イベント「MANNAKA」に看護学部学生として参加しました。外国人住民が多く参加し、山梨県にもこんなに大勢の外国人が生活しているのだと改めて認識しました。母国と違う環境で暮らす大変さや孤独感も多い外国人住民にとって、このようなイベントは日本人・外国人を問わず、同じ地域住民として交流できる場であり、暮らしやすさに繋がっていると感じました。

私たちは、このイベントで外国人住民の身体計測および一次救命処置(BLS)を体験する場を提供しました。言葉の意味は分からなくても、その笑顔から感情を共有することができることを学びました。私たちは毎年、当たり前のよう健康診断を受けていますが、自国と異なる環境で暮らす外国人にとっては自身の健康を確認する機会に乏しく、日本人ほど健康が守られていないと感じました。またBLSでは胸骨圧迫や人工呼吸を体験してもらい、交流という意味では楽しく実施できましたが、言語やジェスチャーに限界があり、正確な情報伝達が必要な医療現場においては医療通訳が必要であると感じました。

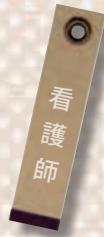
私たちは、国際医療や看護は海外で行われるもので、海外に行かなければ国際交流もできないと思いついていました。また、これまで海外のひととの距離を縮めることが苦手でしたが、少しの勇気でこんなにも世界が広がることを知りました。Covid-19の影響でグローバル化に逆走しているように感じられますが、看護の対象は全ての人であることを改めて考え、地域住民が国籍に関係なく共に手を取り合い生活できる社会になってほしいと感じました。

同窓生の活躍員

看護師
保健師
助産師
養護教諭
教員

大切な人たち

山梨県立中央病院 看護師 奥田 悠祐



新型コロナウイルスの流行でステイホームを求められており友人に会いに行くと言ったことが簡単にはできません。直接会ってみんなと話したい、美味しいご飯を食べたい、そんな思いはやはり消えません。

そんな中でオンラインで友人と繋がれることにありがたみを感じています。共に大学生活を送り、看護職者として働き、互いのことを語り合える友人達と過ごす時間はオンラインであれど、大切な時間です。そんな友人達のことを私はこれからも大事にしたいと思っています。今回のステイホームで、これまでの日常を考える時間ができたことで、関わっている患者様の突然の入院による非日常、家族や友人に会えなくなる悲しさ、そんな気持ちに対しても寄り添うことが、私達看護職者には求められていると改めて考えることができました。これからの人生の中で



この気持ちは忘れず、他人にとつての大事にしたい人との繋がりがや暮らしのことも大切にしていきたいと思えます。

人との出会いとつながり

～看護学研究科修了後の実践から～

山梨県立大学看護学部 教員 武田 真弓



私は、この春から臨床を離れ、母校である山梨県立大学に活動のフィールドを移しました。遠隔授業など、はじめてのことや人との出会いの連続で、毎日たくさん刺激を受けています。

私は、本学の看護学研究科CNSコースを修了後、慢性疾患看護専門看護師の認定資格を取得しました。資格取得後、地域連携室配属となり、病院内で横断的に活動できる立場となりました。退院支援/調整の役割を担い、病棟看護師や医師、理学療法士や管理栄養士など、専門職の間と慢性病を持つ人のケアについて考え、悩み、実践しました。患者さ

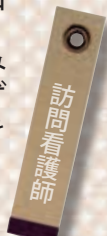
んやご家族へのケアを通し、地域の医療介護福祉の専門職のみならず、関係を築き協働することもありました。これまで看護に携わってきたことも、そして今、私がここに身を置くことも、これまでの人との出会いやつながりの延長線上にあるのだと感じています。これからも、人との出会いやつながりに感謝し、楽しめる自分でありたいと思います。



今が一番充実しています

甲州市社会福祉協議会訪問看護ステーション

訪問看護師 向山 みずき



今から8年前。学生時代の友人に声をかけてもらい、初めて訪問看護に勤めました。約1年勤務した後、第2子を早産で出産し退職。病気がちの子供達を育てながら働くのは大変で、病院やデイサービスなど職場を変えながら乗り越えてきました。



子供達が成長するにつれ、今度は看護師としてのやりがいについて考えるようになりまし

た。私が看護師として最も大切にしたいことは、利用者さんやご家族とゆつくり向き合い思いに寄り添うこと。それを叶えられるのは、訪問看護しかない! と思い、5年ぶりに訪問看護ステーションに戻らせてもらいました。子供達は小学生になりました。2人とも毎日器械体操の練習に通うほど体も丈夫になりました。今度は練習の送迎、仕事、家事の両立に忙しい日々を送っていますが、理想の看護を追究することのできる訪問看護は魅力に溢れ、今までの看護師人生の中で今が一番充実していると実感しています。

絆で支えられている 私のワーケーションバランス

山梨県立中央病院 総合周産期母子医療センター

助産師 見高智香



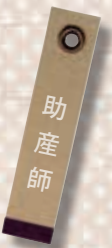
務でできています。

帰宅後はしばし戦争です！荷物を片付けながら、お風呂の準備をしながら、夕飯の準備をしながら、洗濯物を片付けながら、

私は8歳、7歳、3歳の三兄弟の働く母です。新型コロナウイルスの影響で小学校休校のため、毎朝ギリギリの出勤に、早めの帰宅。師長さんをはじめ職場の皆さんの理解と協力があつてこそ休まず勤務

小学生組の宿題と三男の面倒をみてと、まさに多重業務の連続です。入浴をすませて、洗濯機1回目を回しながら、夕食タイムを見守りながら、今日の出来事を聞きます。ここで、私はやっと1杯のコーヒーを飲むことができるのです。

仕事でも自宅でも多重業務に追われる毎日ですが、職場だけでなく、ひっそり宿題をみて丸つけまでしてくださる小学校・児童館の先生方、元氣いっぱい三男をたくさん遊ばせてくれる保育園の先生方との「絆」に支えられて今日も元気に仕事をしています。



人とのつながり 絆 出会いに感謝

甲府市立千塚小学校 養護教諭 天野淳子



養護教諭として学校に務め20数年。多くの子供たちに関わることができていることや、様々な人とのつながりや絆があつてここまで続けてくることができました。

りがたさと、出会いに感謝の毎日です。

今、社会が大きく変化し続ける中で、様々な背景を抱えながら多様化・複雑化した健康課題を持つ子供も多いため、子供達の心と体の成長に寄り添い、見守りながら養護教諭として働くことができたらと思っています。

協働して子供達を支援することができています。

また、養護教諭は横の連携が厚く、他校の養護教諭の先生方に相談しやすい環境があります。親身に相談のつてくれる仲間、的確な指導をしてくれる頼れる先輩、そして同じ母校の同窓生仲間の養護教諭達の存在！人と人とのつながりや、絆に支えられている



つながりを大切に

山梨県看護協会 健康談話室 (甲府市委託事業)

保健師 高木真純



保健師となり20年以上がたちました。その間病院、企業、沖繩の離島、大学等じつに様々なところで働いてきました。

今は縁があり山梨県看護協会健康談話室で半日勤務をしています。子育て中の生活とのバランスがよく8年目となります。内容は甲府市からの委託事業である「ベビーマッサージクラス」や「ママ友のつどい」など主に子育てに関わる教室を他のスタッフ

と協力しながら運営しています。

教室では県外から甲府市に来た親子、子育ては初めてというお母さん方が多く参加しています。お母さん同士のつながり、相談しやすい雰囲気作りなどを大切に、気軽に継続して参加できるように工夫しています。声かけや対応で悩むこともあります。言葉にいつも励まされています。

これから人と人のふれあい、つながりを大切に保健師として成長していきたいと思っています。

支えてくれたみんなに感謝

医療法人 銀門会 在宅支援センター
甲州ケア・ホーム 甲州訪問看護ステーション
緩和ケア認定看護師 宿 澤 ゆかり



私は、県立高等看護学院 第一看護科42期生です。卒業後、現在のグループに就職し、今年で22年目となり、現在は訪問看護師として在籍しています。

2018年度は緩和ケア認定看護師にチャレンジし、再び母校に通いました。数十年ぶりの母校に懐かしさと教育課程が無事終了できるのから、不安でいっぱい7ヶ月間を過ごしました。ステーションのみんなからは

「現場は私たちに任せて!!」と、私が専念できるような環境をつくっていただきました。みんなの支えがあるから今があると、感謝の気持ちでいっぱいです。今度は私がみんなに恩返しをする番です。

暑さに負けないように、新型コロナウイルスに負けないように、そしてマスクによる日焼けにも注意しながら、今日も訪問車を運転しています。

利用者様、ご家族様に寄り添えるような緩和ケアを実践し、各関係者のみなさまとのつながりを大切に、訪問看護師・緩和ケア認定看護師として活躍していきたいです。

緩和ケア

スタッフとの絆で創る

認知症ケアを目指して

石和共立病院 認知症看護認定看護師 佐野直樹



私の職場はリハビリ病院です。リハビリが主体となる病院の為に、リハビリスタッフとのコミュニケーションを大切にしています。

毎日細かくリハビリが設定されている為、患者一人一人に向けたカンファレンスを行う時間が十分にとれない事があります。運動機能の評価するリハビリ目線と、生活を見据えて評価していく看護師の目線は、患者の生活を元の生活に近づけていく為に必

認知症看護

要なので、個別に日々相談しながら力を合わせて頑張っています。認知症の状態にある人も多く、入院期間も長い為、認知症看護認定看護師として私はストレスや不安を最小限に、リハビリが円滑に行えるよう表れている症状や不安を捉えるお手伝いや、助言をさせて頂いています。患者から生活者へと戻れるケアを考えていく上で、スタッフ同士の「絆」はとても重要である事を実感しています。私達の思いが患者に届き、患者との間に「絆」が芽生えてきたと思えた時はとても嬉しくなります。

同窓生が学んだ

センターの様子を聞いてみました。

『学び逢い・学び深め合い・学びの輪を広げる』

山梨県立大学看護実践開発研究センター

センター長 遠藤 みどり



平素より本センターへの多大なるご支援ご協力を賜り心より感謝申し上げます。

未曾有な事態ともいえる新型コロナウイルス感染症拡大・蔓延に伴う対応で、白樹会会員の皆様におかれましては日々奮闘して下さっていますことを重ねて感謝申し上げます。

白樹会が設立65年目を迎えられる中、諸先輩方の看護への厚い情熱と英知を伝承し、本センターの使命である看護実践の質向上のための専門職支援を、さらに発展させることの重要性を痛感しております。

本センターは設立から10年を経過し、看護職者が看護の専門性を高めるために、学び場で出会い、学び深め合い、学びの輪を広げ、交流できる様々な取り組みを行っています。

認定看護師教育課程では、認知症看護ならびに緩和ケア（休講中）の修了生352名が県内外で、認定看護師として活躍しています。また、看護継続教育では山梨県看護協会や山梨県と連携し、多施設合同新人研修や実地指導者研修、研究支援、公開講座等を行なっており、参加者から好評を得ております。白樹会からのご支援も大きな力になっております。

センターHPもリニューアルし、センター教員、事務担当者を中心に看護学部全教員で精力的な取り組みをしておりますので、多くの会員の皆様にご活用いただければ幸いです。

齊藤会長様をはじめ、会員の皆様のご健勝と白樹会の更なるご繁栄をご祈念申し上げます。



センター専任教員<狩野(右端)・橋本(左から2番目)>・事務担当<水野(左端)>のメンバーと共に精力的に活動しています。<白樹会寄贈：富士櫻・初氷の絵画前>

この困難な状況の中において

感じる絆

山梨県立大学看護学部 学部長 名取 初美



山梨県立
大学看護学
部同窓会白
樹会の皆様
には、本学

部の教育について日頃から多大なご支援をいただき、感謝申し上げます。

昨年末から今年度にかけて、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が学内行事や授業、実習に影を落としています。行事は中止、授業開始は1ヶ月ほど遅れて遠隔授業となり、前期の看護学実習はすべて学内演習に変更され、教職員はこれらの対応に追われております。特に学生の実習や演習等に際し、感染防止としてマスクを確保しなければならぬと苦慮していた時に、白樹会からマスクを寄付していただきました。マスクを確保す

ることは非常に困難な状況にあります。何にも代えがたいご寄付です。卒業した先輩方によって在学生を支えていただける、これこそ人と人との結びつき、絆ではないでしょうか。心から感謝申し上げます。

このような状況になろうとは、だれも想像していませんでした。しかしこのような時だからこそ、大学に関係するすべての人が一丸となって、教育に力を注ぐ必要があります。昨年 one team という言葉が流行語大賞に選ばれました。危機的な状況だからこそ、看護という key word でつながっている私たちが、1つのチームとしてお互いを思いやりながら、この困難を乗り越えていきたいと考えています。今後ともご支援、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

強い絆でつながりながら

山梨県立大学大学院看護学研究科 研究科長 佐藤 悦子



白樹会の皆様には、日頃より看護学研究科の教育・運営に多くのご支援をい

ただき、心から感謝申し上げます。本研究科も開学して19年目を迎えました。この間、修了生を1115名輩出した。全国で活躍しております。令和2年度は新たに6名の新入生を迎え、現在28名の院生が学んでおります。

令和2年度は、かつて経験したことのない新型コロナウイルス感染症の禍の中でスタートいたしました。大学院生のほとんどは医療現場で働きながらの就学であることに加え、遠隔授業で行わなければならない状況に、先の見えない不安を感じておりました。しかし、学生の学ぼうとする意欲と事務局の細やかな対応とに助けられ、大きな混乱もなく授業は進められております。この過程のなかで思ったことは、こ

のような状況の中でもなんとか互いにできることをやろうという「気持ち」がつながっていったことです。誰一人不満も言わず、学生も教職員も精一杯学ぶ環境を整えていったことです。互いの状況への思いやりがなければできないことではないと思えました。さらに、修了した先輩からは、こんな時期だからこそ院での学びを実践に生かしているといった力強いメールをいただきました。脈々と本学での学びは修了生たちによって根付いていっています。

今、大学院は博士課程設置に向けた準備をしております。今後も、以上に学部と一体となり強い絆でつながりながら、県内外の看護に貢献できるように取り組んでいきたいと思えます。白樹会の皆様には、今後ともご指導、ご支援を心よりよろしくお願いいたします。

今年度の事業2

合格祈願・
卒業記念品
贈呈写真2020



最終講義



令和2年2月、最終講義の場を頂き、改めてこれまでを振り返る機会となりました。
イギリスの詩人は「私とは私が出会ったすべての人のことを言う」と述べているそうです。私は多くの人々との出会いによって育まれてきました。シュバイツァー、看護学校の患者A氏、保健学科の望月弘子先生との出会い等によって「生きるとは人々ともにあること」を基本的理念に、保健師活動や池田地区をフィールドとした県立高等看護学院での保健師教育から専門職としての土台を形成して頂きました。それから短期大学・大学教育において公衆衛生看護学分野に一貫して携わることができたのは実習地等をはじめ多くの関係機関のご支援によるものです。特に実践現場での保健師の役割機能、地域診断に関する保健師の実践知について共同研究等から得た成果を保健師教育に繋げ、現場の保健事業や保健計画策定に還元するというサイクルを形成できたのは、諸先輩方、卒業生の皆様との信頼関係の上にある絆によるものと感謝の日々です。さらに挫折しながらも活動を継続できたのは、住民主体への支援、保健師力量形成を可能とするリフレクションの導入、運動継続における保健師実践力等について大学院等の諸先生方からのご指導によるものと改めて実感します。そして最後に、このような自身の生き方を表現できたのは、大学教育・運営・地域貢献・研究を可能とする『大学』という場があったからこそと言えます。今後も白樹会ならびに山梨県立大学のご発展を心よりご祈念致します。

フロレンス・ナイチンゲールの生誕から200年、新型コロナウイルスのパンデミックに見舞われた看護職にとっても、この機に彼女の生きた時代を振り返ることは意義深く、また勇気づけられることと思います。19世紀のロンドンには産業革命後の極めて劣悪な都市環境の中、繰り返し流行したコレラとの闘いの時代でもあった。当時は空気感染する「瘴気」が原因と考えられていたコレラも、疫学の父として名高いジョン・スノーのコレラマップの作製により井戸水からの経口感染が疑われ、対策として行われた共同水栓の閉鎖によって流行が収束に向かった話はあまりにも有名である。同時代にロンドンに生きたナイチンゲールとの接点を探ってみると、コレラマップの作製の背景には、死亡統計を扱う人口登録局のウイリアム・ファアによる公衆衛生を目的とした統計の蓄積がある。そして彼こそがクリミア戦争におけるナイチンゲールの傷病統計の作成を援助した人物です。1854年の大流行時、ナイチンゲールはミドルセックス病院で娼婦などの貧困層のコレラ患者の看護に懸命にあたったことも記録されています。病原体も、感染経路も特定できない未知の病に冷静に向き合い、衛生環境の改善を進めた彼女の生きざまがとも輝いて感じられるのは私だけでしょうか？
今春、山梨県立看護短期大学の開校から25年の務めを終え、山梨の地で、多くの同窓会の皆様と一緒に公衆衛生の仕事に携わることができたことを心から感謝しています。

村松 照美先生より

小田切 陽一先生より

退任された先生方よりメッセージをいただきました。

総会（リモート体制）の開催、 講演会中止のお知らせ

2019年10月12日に開催予定で準備しておりました総会・講演会において、大型台風の影響で中止せざるを得ない状況となり、ご参加予定の皆様にはご迷惑をお掛けし、誠に申し訳なく存じます。また現在、新型コロナウイルス（COVID-19）の感染が拡大している状況を鑑み、本総会や講演会について、実施方法や中止などの協議を重ねてまいりました。安全を第一に考え、一方で同窓生の皆様の貴重な資金を預らせていただいている事務局としては、活動報告や収支決済などの重要な決議を2年連続でメール審議というわけにはいかないという結論に至りました。

そこで、今年度2020年10月10日は、総会を遠隔システムで開催する準備をしております。講演会については、大変残念ながら中止といたします。詳しくは、ホームページをご覧ください。ぜひとも、皆様のリモート参加および忌憚のないご意見をお待ちしております。

「白樹会基金」を設立します。

ただいま、基金規定を整備しております。

山梨県立大学大学院看護学研究科 2021年度大学院生募集

詳しくは、「山梨県立大学大学院」を検索
<http://www.graduatenuising-yamanashiken.com/>

山梨県立大学看護実践開発研究センター 母校で認定看護師をめざそう！

(認知症看護)

詳しくは <https://rcdnp.yamanashi-ken.ac.jp/>

同窓会幹事代行『Reフレンズ』

同窓会をしたいけど、幹事は大変・・・
そんな幹事様の声にお応えして、
サラトが幹事の仕事を代行いたします！
まずは、お気軽にお問い合わせください。



同窓会専用
ホームページ開設
パスワードでログイン
セキュリティも安心

当日までの雑務は
すべて
おまかせ

案内状を
出したくても
住所が分からない
そんなケースにも**対応!**

お問い合わせ 株式会社 サラト 同窓会プロデュース専用

TEL0120-953-070

受付時間 月～金 9:30～12:00/13:00～17:00

WEB サラト

「サラト」で検索。同窓会幹事代行
Reフレンズのバナーをクリック。



株式会社 サラト

〒670-0948 兵庫県姫路市北条宮の町172番地
Tel.079-284-1380 Fax.079-288-4834

編集後記

今回、会誌を編集するにあたり、刻一刻と変化する世界の混沌にのまれ、日々追われながらでしたが、編集員をはじめ事務局員一同が力を合わせて、時にはメールで、時にはWebで会議を重ね何とか発刊までに至りました。

不備も多くあったかもしれませんが、ご寄稿いただいた同窓生・先生方には本当にご迷惑をおかけしました。苦しい中でも快く引き受けてくださり、本当に感謝申し上げます。

今こうして大変な時代だからこそ思うことがあります。「そんな時代もあったねと。いつか話せる日が来るわ（B.Y中島みゆき）」と。

辛い日もあるでしょう。明日どころか今どこに立ってて、どこに向かっているのかわからない時もあるでしょう。でも、いつかきつと笑って話せる日が来ます。そして、その時は一緒に母校で笑いましょ。

事務局員一同母校の発展と学生への貢献のために日々活動しています。ぜひ、今後とも温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。

編集委員会 新藤・三澤・星野・小沢